

水稻の生育状況と今後の管理対策（第10号）

平成27年9月10日
新潟県農林水産部

〔要約〕

水稻の生育状況

◎ コシヒカリの収穫適期は、県平均で平年並みの見込みです。

今後の管理対策

◎ コシヒカリは籾の黄化率を確認し、適期に収穫しましょう。地域別の収穫適期は、地域の技術情報を参照してください。

◎ 高水分の籾を収穫した場合は、胴割粒の発生を防ぐため、乾燥の仕方に注意してください。

◎ 田がぬかるんでいるので、収穫作業時の事故に十分注意しましょう。

◎ 台風15号の影響により被害があったほ場は、着色粒や乳白粒等を確認し、品質に応じてほ場を区分けし収穫してください。

〔生育状況〕

○ コシヒカリの出穂期^{しゅっすいき}*は平年より2日早まっていますが、8月第3半旬以降の低温・日照不足により、登熟は緩やかに進んでいます。

*出穂期：全体の茎の40～50%で穂が出た日。

〔今後の生育見込み〕

○ 9月3日発表の北陸地方の1か月予報(9月5日から10月4日まで)によると、向こう1か月の気温は、低い確率40%で、1週目は低い確率60%、2週目は平年並の確率50%です。

○ 9月8日現在で、積算温度から見たコシヒカリの収穫適期は、県平均で9月15日と平年並みの見込みです。

〔当面の管理対策〕

○ ほ場ごとの籾の黄化率を確認し、85～90%に達したら収穫しましょう。出穂後の積算温度による収穫時期のめやすは、コシヒカリは1000℃です。地域の技術情報を参照に作業計画を立て、適期に収穫しましょう。

○ 成熟期頃にフェーン等により、立毛中の籾水分が急激に低下した場合は、胴割粒が多発する危険があるので、早急に収穫しましょう。また、今後の立毛胴割れの情報にも留意してください。

○ 高水分の籾は、水分のばらつきが大きいいため、水分が18～20%まで低下したら一旦乾燥を停止し、半日程度貯留し、水分ムラを解消した後に適正水分まで再乾燥し胴割粒の発生を防ぎましょう。乾燥機に2段乾燥機能等が備わっている場合は活用しましょう。

○ 乾燥は、水分の減少速度が1時間当たり0.8%以内になるよう設定しましょう。特にフェーン現象等で籾水分が急速に低下した場合は、胴割粒の発生を防ぐため0.5%以内となるよう送風温度を下げたり、2段乾燥機能を活用しましょう。また、乾燥終了時は、必ず手持ちの水分計で仕上げ水分を確認してください。

○ 青未熟粒や着色粒・その他未熟粒が多い場合は、1.9mm以上の篩目^{ふるいめ}*や色彩選別機を使用し、1等米に仕上げましょう。

- ほ場に降雨が滞水する場合は、収穫作業時の地耐力確保のため、速やかに排水してください。
- 収穫作業時のコンバインの転倒・転落・動力部の巻き込まれに注意しましょう。
*篩目：米粒を機械選別する際に使用する網目の大きさ。

[台風 15 号の強風被害を受けたほ場における栽培管理]

- 変色粳の発生や、茎葉の損傷・倒伏の被害を受けたほ場は、粳をむいて着色粒や乳白粒等の品質被害を確認し、被害が大きい場合は無被害ほ場の米と混ぜないようにしてください。
特に、変色粳率が30%以上のほ場は、着色米が混入する可能性が高いので、収穫・乾燥・調製を別扱いしてください。
- 着色粒は刈り遅れにより増加するので、粳の黄化率が85~90%に達したら、速やかに収穫しましょう。

●今後の管理対策発行予定日	9月18日
---------------	-------

〔補足資料〕

1 コシヒカリの生育状況

下記生育状況と1頁の「水稻生育状況と今後の管理対策」の生育状況とは、調査ほ場及び調査数が異なるため、項目によっては一致しない場合があります。

(1) 農業普及指導センターの「生育調査ほ」の結果（生育等）

- コシヒカリの稈長は指標値並み、出穂後15日の葉色及び出穂後25日の葉色は県平均で指標値（理想的な生育めやす）並みであった（表1、図1）。
- 品質安定化対策実証ほのコシヒカリは、稈長は指標値並み、出穂後15日の葉色は指標値並み、出穂後25日の葉色は指標値に比べやや濃かった（表2、図2）。

表1 生育調査ほ調査結果（コシヒカリ）

項目	調査値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
稈長 (cm)	91	92	99 %	・ 平年比 98%、H26 年比 96% ・ 指標値並み
出穂後15日 葉色 (SPAD 値)	31.1	31.0	+0.1	・ 平年差 -0.7、H26 年差 -3.4 ・ 指標値並み
出穂後25日 葉色 (SPAD 値)	27.4	27.1	+0.3	・ 平年差 +0.5、H26 年差 -3.4 ・ 指標値並み

注) 県内15か所に設置した生育調査ほの平均、田植日5/13、栽植密度57株/坪

表2 品質安定化対策実証ほ調査結果（コシヒカリ）

項目	調査値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
稈長 (cm)	93	92	101 %	・ 指標値並み
出穂後15日 葉色 (SPAD 値)	31.7	30.8	+0.9	・ 指標値並み
出穂後25日 葉色 (SPAD 値)	28.5	27.1	+1.4	・ 指標値に比べやや濃い

注1) 県内14か所の平均、田植日5/14、栽植密度57株/坪

注2) 一部地域では、調査ほ設置場所の違いから、品質安定化対策実証ほの指標値が生育調査ほの指標値と異なる場合がある。

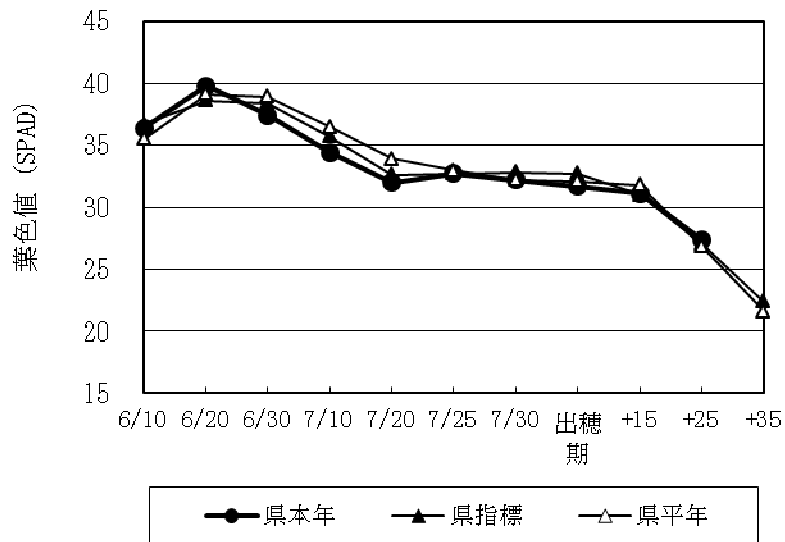


図1 生育調査ほコシヒカリの葉色推移

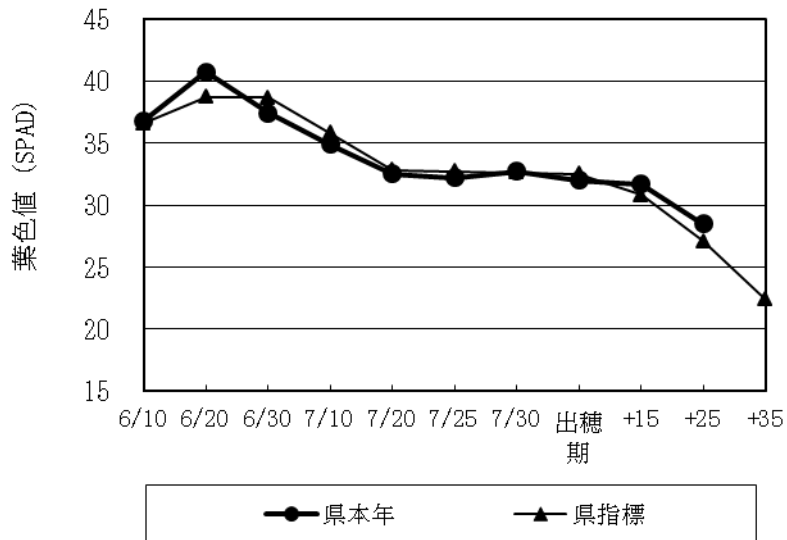


図2 品質安定化対策実証ほコシヒカリの葉色推移

2 積算温度からみた収穫適期のめやす

- 平成 27 年の気象は、平年に比べ、7 月 3 半旬から 8 月 2 半旬まで高温傾向で日照も並みから多くなったが、8 月 3 半旬以降は低温傾向で、日照時間は少ない（表 3）。
- 地域の気象や登熟速度等を十分に把握し、登熟後半の籾水分の低下が早く、胴割れ等、玄米品質の低下が懸念される場合には、表 5 を参考に収穫開始のめやすを早めて刈遅れないようにする。
- 成熟期以降にフェーンによる極度の乾燥に遭遇した場合、その後、日を追って胴割粒が増加する危険性が高まることから、「飽差(ほうさ)※」やほ場での籾水分を確認した上で、できるだけ早く収穫することにより、胴割粒の発生を抑制する。

※「飽差」：空気の乾燥程度を表すもので、数字が大きいほど乾燥が強い。水稻の立毛胴割れが多発する気象要件の一つとして、「飽差 9g/m³以上」を危険水準として設定。

表 3 気象の推移（アメダスデータ）

アメダス観測地	月半旬	平均気温 (°C)		日照時間 (時間) (平年比は%)			降水量 (mm)	
		H27	平年差	H27	平年差	平年比	H26	平年差
新潟	7 月第 6 半旬	27.5	0.9	41.6	-1.0	98	24.0	1.1
	8 月第 1 半旬	28.7	1.7	59.4	22.9	163	0.0	-19.2
	8 月第 2 半旬	28.3	1.3	60.0	23.5	164	0.0	-20.8
	8 月第 3 半旬	26.2	-0.6	10.7	-25.5	30	50.0	27.8
	8 月第 4 半旬	25.1	-1.5	19.8	-15.3	56	14.5	-8.5
	8 月第 5 半旬	24.2	-2.0	13.4	-20.3	40	10.5	-12.5
	8 月第 6 半旬	22.9	-2.8	20.6	-17.5	54	39.5	10.7
	9 月第 1 半旬	23.2	-1.7	14.6	-14.5	50	30.0	4.4
長岡	7 月第 6 半旬	27.9	1.8	44.7	7.0	119	14.5	-9.0
	8 月第 1 半旬	29.2	2.7	57.2	24.8	177	0.0	-17.9
	8 月第 2 半旬	28.4	2.1	53.1	20.9	165	0.0	-22.0
	8 月第 3 半旬	26.0	-0.3	11.9	-20.1	37	16.0	-10.2
	8 月第 4 半旬	25.0	-0.9	18.7	-12.7	37	20.5	-5.5
	8 月第 5 半旬	24.5	-1.0	10.7	-19.6	35	8.5	-15.1
	8 月第 6 半旬	24.4	-0.8	15.4	-2.0	89	16.5	2.7
	9 月第 1 半旬	23.1	-1.0	15.6	-4.6	77	20.0	-1.1
高田	7 月第 6 半旬	28.1	1.6	43.6	4.5	112	18.0	-3.2
	8 月第 1 半旬	28.7	1.9	56.7	23.4	170	0.0	-15.7
	8 月第 2 半旬	28.2	1.4	54.0	21.3	165	0.0	-18.5
	8 月第 3 半旬	26.1	-0.5	15.2	-17.0	47	29.0	4.9
	8 月第 4 半旬	25.0	-1.3	17.5	-13.8	56	35.5	6.6
	8 月第 5 半旬	24.8	-1.1	10.7	-19.5	35	6.0	-23.4
	8 月第 6 半旬	23.6	-1.0	13.3	-21.4	38	60.5	27.7
	9 月第 1 半旬	23.3	-1.6	18.7	-7.2	72	32.5	3.7

表4 収穫適期のめやす

熟期	品種	出穂後積算温度 (°C)	
		高温時	平温時
中生	コシヒカリ、こがねもち	950	1000
晩生	越淡麗	—	1000~1050

注：出穂後積算気温は、出穂期の翌日から起算する。

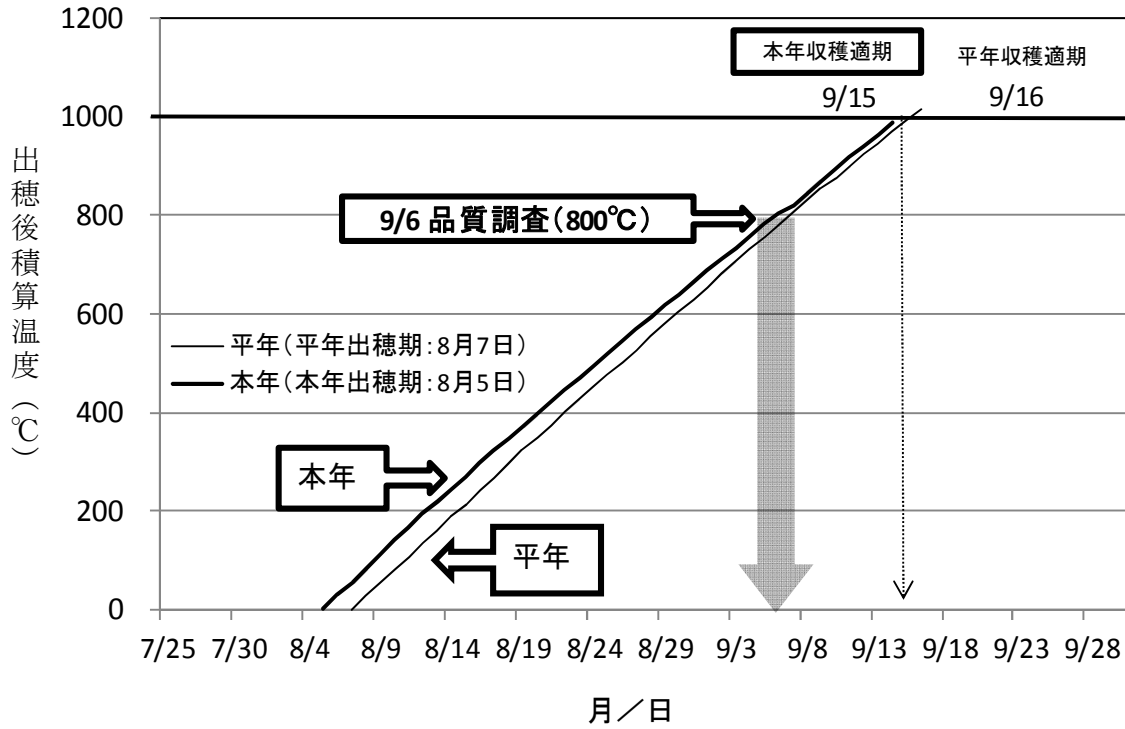


図3 コシヒカリの収穫適期

注：気象感応は県平均。長岡アメダスデータから収穫適期を推定、9月7日まで本年値、8日以降は30年間の平年値を使用。